

TEL 233 340 000
FAX 224 313 684
Email Jschool@volny.cz

V L T A V A

学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

大きな目標と小さな目標

校長 齊藤 仁

(1月5日始業式での話)

あけましておめでとうございます。いよいよ西暦2016年、平成28年がスタートです。

さて、今日は一つの報告と二つのお話をします。まず初めに、昨年、児童生徒会が中心になって病気のベラ・チャスラフスカさんのために折ってくれた千羽鶴の話です。冬休みに入って本当に突然のことですが、チャスラフスカさんが12月22日に学校に来られるという連絡がありました。冬休みに入って突然のことでもあり、連絡網も完全には回らなかったのですが、70名の児童生徒と保護者・関係者でお迎えすることが出来ました。児童生徒会長の小幡君が、千羽鶴の授与と励ましの言葉を送りました。チャスラフスカさんは、毎日朝晩点滴で治療されているとは思えないくらいものすごいパワーを感じさせる方でした。さすがに2回のオリンピックで7個の金メダルを取った人だなあと実感しました。最初のオリンピックは東京ですが、その時の日本人がオリンピックを成功するためにどれだけがんばったか、そして日本人学校の児童生徒が鶴を折ってくれたり、当日話を聞いたり質問したりする様子から、みんな本当に優秀な子どもたちですねって、改めて心から感動されていました。もう一度来校して金メダルと日本からもらった勲章をみんなに触ってもらいたいとおっしゃっていました。みんなが折ってくれた鶴を通して、お

見舞いの気持ちや伝わったことを報告します。サインとその時の写真は廊下に掲示してあり



ます。チャスラフスカさん(左)と島津さん(右)

次は二つのお話です。終業式の時に、みんなに今年の目標をたててくださいという話をしましたが、覚えていますか？そして、実行できましたか？目標についての二つのお話をします。目標には、大きな目標と小さな目標という二つの種類があります。大きな目標というのは、夢や理想といった遠い未来への目標です。小さな目標というのは、今日からすぐに何かをやるという具体的な目標のことです。

まず、大きな目標のお話。これは、夢としての目標です。チャスラフスカさんのようにスポーツで世界一になる、あるいは大好きな音楽やデザイン、発明、会社をつくって世界をあとと言わせる。何か夢をもって生きてほしいと思います。みんなは世界で生きる子ですよ。みんなにとってこの広い世界が、自分の世界です。いろんな夢が転がっています。そこに自分の夢を見つけたいと思います。夢は、本当に大切に

す。信じ続ければ、必ず道は開けます。

次に小さな目標のお話です。大きな目標を達成するには、それを実現するための具体的な小さな目標が必要です。毎日 10 分漢字や英単語を覚える、毎日日記をつける、そんな毎日の変わらない繰り返しから、大きな「変わる」が生まれてきます。この小さな目標には、3つの効果があります。それは、集中力と習慣、そして自信です。まず、集中力です。小さな目標は、やることがわかりやすいから集中してできます。何をすればいいかがわかるからです。そのことで、集中力が鍛えられます。そして、それをコツコツと続けることで習慣が生まれます。成功の秘訣は、毎日の習慣なのです。そして、最後に自信。小さな目標は、達成できたか、できないかがすぐわかるので充実感があります。そしてやらされているのではなく、自分の意志でやっているという満足感があります。この充実感、満足感は、やがて小さな達成感となり、小さな自信をもたらしてくれます。それは繰り返すことで、大きな自信に成長していきます。集中力と習慣と自信を、小さな目標をつくることで伸ばして行ってください。みんなは 4 月になると、もうひとつの大きな節目を迎えますね。それは、新しいスタートの時期でもあり、また別れと出会いの時期でもあります。4 月に向けての 3 カ月を有意義なものとするためにも、大きな目標と小さな目標をもって過ごしていきましょう。

【チャスラフスカの通訳をしていただいた島津さんからのメールです。】

「チャスラフスカさんをお宅にお送りする帰りの車の中で、たまたま病院から彼女に携帯電話が入りました。治療時間のご相談だったようですが、『〇〇先生。聞いてください。たった今、プラハの日本人学校を

訪ねてきたんです。毎日あちこちからお呼びがかかるのだけれど、先生のご指示通り大方のケースはお断りしていますよ。でも、日本の子供達が心からのお祈りを託して千羽鶴を私のために作ってくれたんですよ。それなのに会わずにいられますか？それで今動ける時に、と思い切って学校の皆さんに無理を言って訪ねさせていただいたんです。そしたら冬休み中というのに可愛い生徒さん達がたくさん集まって下さっていてご父兄の方もたくさんいらして、歓迎のプログラムまで用意してくださって。想像できますか？私は、たとえ子供さん一人だけでもお礼の気持ちを受けていただくためにお訪ねするつもりだったのにあんなにたくさんの方から精一杯の歓迎をいただいて・・・涙・・・病気のことをすっかり忘れてしまいました。本当に賢くて愛らしくて・・・あの学校は素晴らしいのですよ。子供さん達も優秀で、余りにも素敵な環境で興奮してしまいました。』とまるで独り言のように病院の先生に一方向的に話されていました。お電話が終わってからも、『本当に良かった、本当に良かった。またお招き頂けるかしら。今日だけで終わりたくないわ。』と、心より感激されていました。校長先生をはじめ、皆様がチャスラフスカさんをお迎えして下さるためにどれほどのお骨折りをされたのか計り知れません。こちらからの突然の申し出にもかかわらず、お困りになったお顔一つ見せられず、最高の交流会をご用意してくださったことをチャスラフスカさんに代わって心よりお礼を申し上げます。このことは、チャスラフスカさんから必ず伝えておいて欲しいと言付かりました。」

転入のお知らせ

小学部 1 年 熱田 暁哉 さん